新全総を考える分科会、「正月の笠間を歩く」報告

平成13年1月13日（土）

	「笠間クラインガルテン」は、「農芸と陶芸のハーモニー」をテーマに、都市住民が地域住民と交流を保ちながら、草花や野菜を栽培し、心身共にリフレッシュできる農村生活空間を体験できるもので、笠間市の多様な資源を活用した新たな成る生活文化を提案している。 笠間石を土止めに利用し、ラウベはコテージ風。緑の大きな空間に囲まれた自然豊かなロケーション。コテージの形態、色、配置・区画の規模にもう少し工夫を。プラスα（温泉など） があればなお良い。
「笠間芸術の村」には、画家の住居やアトリエなどが点在。芸術の村の中央には料理家でかつ優れた陶芸家でもある北大路路山人がかって住んでいた民家を鎌倉から移築した「春風万里荘」がある。	

生け垣をめぐらし、しっとりした古い日本的な情緒にあふれた懐かしい雰囲気が一帯にただよっている。	
	「笠間芸術の森公園」は、総面積５４ｈａで、野外コンサートができるイベント広場、陶芸歴史の森プロムナード、陶炎祭（ひまつり）広場、また隣接工芸団地８．４ｈａには、窯業の技術研究や後継者育成を図る「茨城県工業技術センター窯業指導所工房」、また笠間焼きの伝統産業の紹介・体験教室のある市の「工芸の丘」がオープンしており、茨城の新しい文化の情報発信基地として、伝統工芸と新しい造形美術をテーマとして新しい息吹が感じられる地域となっている。

市営来栖住宅は、県内初の環境共生住宅団地の試み。

地場産業育成のため、建築素材に地元産の木材や瓦などを使用する工夫をしたり、自然環境に配慮して、浸透枡を設置したり、地域特性を生かした街づくりを行っている。

集合住宅･戸建てのあり方（隣接間隔、規模、形態など）に検討の余地。

笠間稲荷を中心とする古くからの町並みは、おみやげ屋や商店が建ち並び、稲荷詣での客が1年を通して訪れている。

駐車場にはやや難があるものの、町並みには賑わいがある。

また商店は、現状に甘んじることなく、笠間焼きだけでなく笠間らしい特産品の開発などが望まれる。

石井北部・寺崎地区については、笠間砕石廃材を利用した盛り土で区画整理を行い、ショッピングモールを誘致して地域振興を図り、また飯田川については、「ふるさとの川モデル事業」により石張り護岸や積み石護岸を採用し、またスーパー堤防方式で背後地を盛り上げたまま造成している。 新しい活気ある息吹が感じられる町並みである。	